



学校経営方針

校長 成田 弥生

「学校は、子どもたちの幸せのためにある」

1 教育目標

○思いやりのある子

自他ともの幸福を考え、「子どもの力で誰も取り残さない」ことを意識し、温かいコミュニケーションを通して、仲良く、笑顔あふれる子ども

◎考える子

自ら問いをもち、自分なりの方法で探究し、対話を通して学びを深め、考えたことを自分ごととして捉え、生活を豊かにする子ども

○元気な子

元気に挨拶し、心身ともに健やかで、よく遊び・よく食べ・よく寝て、よりよい生き方に挑戦する子ども

2 経営ビジョン

～自分が幸せに・周りの人も幸せに～

子どもも大人も笑顔あふれる学校



(1) 目指す学校

○子どもも大人も笑顔あふれる学校

温かな人間関係をもとに、児童・教職員が生き生きと楽しんで活動する

○切磋琢磨し、成長を実感できる学校

互いの考えを大切にし、対話を通して学びを深め、共に成長を実感する

○未来に向けて、変化し続ける学校

サムシング・ニュー（前例踏襲せず）、変化を作り出し、チャレンジし続ける

○誰も置き去りにしない学校

どの子にも居場所をつくり、学びの個別最適化を目指す

○地域を愛し、地域に愛される学校

地域の宝である子供たちを家庭・地域と連携し、共に育てる

『子どもにとって教師は最大の教育環境』

(1) 具体的な取組

目指す児童像①⇒

①主体的に学ぶ児童の育成
「学びを楽しみ、深められる人」

- ・自ら「問い」をもち、**学びを自己調整し、対話を通して学びを深める力を育てる**
- ・ICTの活用能力を高め、情報を生かし、学びや生活に生かせる力を育てる
- ・自分の考えをもち、対話を通し協働して学び、よりよい考えを導ける力を育てる

目指す教職員像①⇒

- ・資質向上のためにすすんで学び、授業の充実のために創意工夫する教職員

切磋琢磨！

□「楽しい・分かる・できる」を実感できる授業

- ・「**やってみたい!**」と興味関心を引き出す楽しい授業（たいのある授業）
- ・発問を工夫し、子どもの「**問い**」を引き出す授業
- ・自分の考えをもち、**子どもの言葉でつくる授業**（学びの転換）

□「子ども発」の学びを共につくる

- ・子どもが**自分に合ったやり方**を選び、**自ら学びを創り出せる**ようにする
- ・効果的な振り返りと活用のある授業で**自分ごと**にできる学びにする
- ・ICT機器を効果的に活用し、**自ら選んだ方法**で個別最適な学びにする
- ・**ワクワク夢中になる**探究的な学びをつくる⇒校内研究

□対話で学びを深める授業

- ・対話を通して学びを深める⇒「**よりよく聞く**」「**分かりやすく話す**」
- ・相手意識を育てる⇒**違いを認め、相手の考えを大切に**できるようにする
- ・よりよく表現する⇒**相手に伝わるよう**に発表力やプレゼンテーション力を高める
- ・読書の機会をつくり、語彙力の向上と本に親しめるようにする
- ・大人の言語環境を整え、**温かいコミュニケーション**を大切にする

□誰も取り残さない学びを保障する

- ・基礎・基本を身に付け、**どの子どもも8割を目指す**⇒8割達成していない子のサポート
- ・家庭と連携し、個別のニーズに合わせた個別支援を必要に応じて行う
- ・家庭自主学习でも、自ら学習計画が立て**効果的に学べる**ように支援する

□授業力・指導力の向上を図る⇒校内研究・OJTの充実

- ・学年専科制（交換授業）、自由進度学習やテーマ学習等**授業形態も工夫し効果的**に行う
- ・教員相互に授業を観合う「**授業ウォッチ**」を年間10回以上行う
- ・名人の授業（指導教諭等の示範授業）から学ぶ機会をつくり、**課題意識を高める**
- ・他校の研究授業や研究発表会に一人が2回以上参加し、参加報告で**全教員へ還元**する
- ・**TLDで学び発信**し、OJTで気軽に学び、活用できる時間・空間をつくる

目指す児童像②⇒ ②思いやりのある豊かな心の児童の育成
「誰とでも付き合える強い心の人」

- ・ **自尊感情**を育て、自分を大切にし、自信をもって人と関わられる子を育てる
- ・ 相手意識をもち、**温かいコミュニケーション**で、人を大切にする**温かい心**を育てる
- ・ **子どもの力で誰も取り残さない**を意識し、多様な人と協働できる**協調性**、**創造性**を育てる

目指す教職員像②⇒

- ・ 明るい笑顔と温かい心で接し、児童の良さを認め、伸ばそうとする教職員

機嫌よく!

□いじめゼロを目指す

- ・ **いじめで困っている子をゼロにする** (⇒3時間以内にいじめ対策委員会を開く)
- ・ 誰に対しても思いやる心を育て、いじめの起きない学校をつくる
- ・ 道徳指導を充実させ、自分の思いを誰もが発言できる学級をつくる
- ・ 人権に配慮して学習環境を整える

□言語環境を整える (温かい丁寧な言葉を使う)

- ・ 名前を丁寧に呼名する (自尊感情を育てる第一歩)
- ・ 児童の発達に応じた、**分かりやすい**、**温かい言葉**で話す
- ・ 「**子どもにとって教師は最大の教育環境**」を意識し、温かいコミュニケーションを心がけ、優しい態度で接する (納得の対話を大切に)
- ・ 温かい言葉プロジェクト

□「どの子どもにとっても分かりやすいを目指して」ユニバーサルデザインの環境づくり

- ・ **見やすい・覚えやすい・聞きやすい・話しやすい・過ごしやすい**環境づくり
- ・ 個別最適な学びの環境 (授業中・個別選択課題) を設定する
- ・ **分かりやすい表現**を用い、ICT活用して視覚化する

□特別支援教育の充実を図る (組織的な特別支援教育)

- ・ 「**分からない**」と言える温かい学級集団をつくり、児童相互に支援できるよう育成する
- ・ 支援が必要な児童の**把握と共有**を早期に行い、個に応じた適切な支援を行う
- ・ コーディネーターを中心に支援教室担任・専門員との連携を図り組織的に対応する
- ・ インクルーシブ教育及び特別支援教育への理解を深め、指導力の向上を図る

□子ども発の特別活動充実と縦割り班活動・異学年交流

- ・ **子ども発**でどの子どもも楽しめる子ども企画をつくり出す(子どもサミット・委員会・縦割り)
- ・ 月に1回の縦割り班活動を**子どものアイデア**を活かして行う
- ・ 共に活動する楽しさを感じさせ、互いを尊重できるようにする

□あいさつ運動 (相手意識の醸成)

- ・ すすんで挨拶をする良さを実感し、習慣化できるようにする
- ・ 「**あいさつ名人 先に笑顔で何度でも**」の合言葉を体現できる子を育てる
- ・ おはようボランティアの協力も得て、地域に挨拶の輪を広げる

目指す児童像③⇒ ③チャレンジする児童の育成

「何があっても乗り越えられる人」

- ・ 自らの目標や課題意識をもち、すすんで挑戦し続け、実現できる力を育てる
- ・ 楽しく体を動かすことにより、自らの健康づくりや仲間づくりを進める
- ・ 地域・社会の活動にすすんで参加し、地域・社会でたくましく生きる力をつける

目指す教職員像③⇒

- ・ 熱意と使命感をもち、和を大切に連携し、チームで取り組む教職員
- ・ 児童の変化をよく見て、よく話を聴き・分かりやすい丁寧な言葉で語る教職員

子どもと一緒に
面白い！

□自主性を育て、チャレンジする良さを実感させる

- ・ あらゆる教育活動を「子ども発」で行える場面をつくり、発達段階に応じて育てる
- ・ 特別活動や委員会・クラブ活動等でリーダーシップを発揮して、自信をもたせる
- ・ 子どもルールメイキングで子どもが学校をつくる
- ・ キャリアパスポートを十分に活用させ、成長を振り返り、将来に希望をもつ

□児童の理解に努める⇒全ては子供たちのために

- ・ 子供の変化を見逃さず、いじめの早期発見・早期対応を的確・組織的に行う
- ・ 子供をありのまま受け入れ、受容的に話を聴き、温かな人間関係を大切にする
- ・ 子供たち一人一人に、教職員からすすんで声かけや挨拶をする
- ・ 生活指導上の課題には全校体制で対応し、関係機関との連携を密に行う
(情報共有・組織的対応・いじめ対策委員会)

□高学年ヒーロープロジェクト(自己有用感を高め、自信をもたせる)

- ・ 下級生のために、活躍する高学年を全教員で育てる
- ・ 学校行事や探究学習、委員会・クラブ活動、縦割り活動の他、高学年で「子ども発」の活躍の場を作り、プラスの評価を全教員がその場で行っていく
- ・ 子どもめあてや子ども企画を高学年中心に考え、達成感を実感させる

□春の小川の小学校を誇りに思う

- ・ 「春の小川の小学校」をよく知り、地域の歴史や地域を愛する気持ちを育てる
- ・ 地域ゲストティーチャーや高野辰之さんの業績を学び、作品の良さを味わい、学校で育てている「コウホネ」を大切に継承していく

□地域・保護者と連携し、地域人材を活用し、効果的な教育活動を実施する

- ・ 授業行事ボランティア・ゲストティーチャー等の外部人材活用を推進する
- ・ コミュニティスクールとして、学校協働推進本部、地域からの学校の教育活動への理解と協力を進め、共に子供たちを育てていく
- ・ 保護者・地域ボランティアと連携し、「子どもたちのために」とよよさん応援団の輪を広げる